

# 随 想



カット/JACK PAUL MAROON

## フラワー アレンジメント

諸泉 陽子

△華道専正池坊・小笠原流照茶家元  
泉会主宰▽

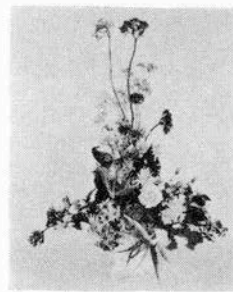


ある日、花屋の店先きで、ティーンエイジのお嬢さんが花を撰んでいるのに出会った。思案の末、ピンクの縁取りのある白いバラ、淡ピンクのカーネーション、マーガレットとカスミ草に落着いた。仕上った花束に、ピンクの紗のリボンがよく似合っている。およばれのおみやげになさるのだそうだ。この頃は、ご家庭でなさるパーティやお祝の席に、あふれるように花を挿して、華やかさを添えた

いと思われる方も多い。いただいた花束を晴々といけて、贈られた方の好意に副いたいと思われる方もある。

いつとなく、こうした方々とともに、ヨーロッパ風のはなをいけ、お茶を飲みながら語る愉しいひとりがはじまった。

私はヨーロッパのいけばな——フラワーアレンジメント——をロンドンで勉強した。女王陛下の戴冠式を飾ったのはあの演出をとりしきった、コンスタンス・スプライ女史の主宰しておられた学校だ。もともと、いけばなの家元であ



英国式フラワーアレンジメント

る私は、滞英中今後の参考までにと軽い気持ちで習いはじめた。ところが、花の色の繊細で微妙な変化をいけるのが思ったより難かしいし、愉しかった。

ヨーロッパのアレンジメントは野や庭に咲く花を摘み集めていけることから始まったといわれる。庭でつんだ花を無難作に入れたバスケットが、恰好をつけないまま、何かの都合でちよつと置いてあるといったさりげない感じにいけるのがそれである。

とにかく、乱れ咲く野の花は、姿かたちが整っていない。庭のものは姿が佳くても、次の花を咲かせるために、長くは切れないだろう。いきおい、一本の花や枝の姿かたちの美しさや風情より、むしろ季節の色のハーモニーをいけることになる。量感ゆたかな花の集まりは、家具の多い空間にまたよく似合う。

花は色が同じでも、形や濃淡によって、印象が随分ちがう。アレンジメントはこの異種同色の美しさを、二等辺三角形にいけることから始める。それぞれの個性と、交錯するはなびらの陰翳がたがいに引立てあって、なまの花なればこそその華麗さとエレガンスを醸しだす。たとえ一、二本ずつでも、同色なら種類は多い方がいい。

上手になるにつれて、混ぜる花

の色数を増し、花型も変化させていく。その頃になると、同じ花材を使っても、三人三様の個性がソフイステイクイトな美しさをもって

てしみ出てくる。無難作ともみえるほど大らかにいける難しさがわかるようになるのもこの頃だろう。来る十月十八日には、二回目の「花の会」を北野クラブで開くことになった。秋の花のアレンジメントに加えて、クリスマス飾るガーランドやリース、ツリーなども観ていただくとうと、会員たちは愉しげに準備をすすめている。

「衆会花の会」10月18日(土) 10:30 AM / 5:30 PM 北野クラブにて

## カモカ連と

## 阿波踊り

加藤きよ子

△今岡京子舞踊団▽



踊り狂うカモカのおっちゃん、田辺聖子さん、加藤きよ子さん

踊る阿呆に、見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにやソソソソ……。

△阿波の殿さま△

この陽気な歌とおはやしの音にひかされて、カモカ連(田辺聖子先生とカモカのおっちゃんひきいる連)の一員として参加したのが四年前。今年も指おり数えて、待ちこがれた八月十二日。昨夜の雨がうそのように、青空が顔をのぞかせ太陽が降りそそぐ。パンザイ絶好の祭日和だ。心もうきうきと一同、大阪南港から小松島港へ。

博多育ちの私は「お祭り」が大好き、いや「踊る」ことが。おはやしの音に浮かれに浮かれて、徳島に向かうバスの中からもうおしりまでムズムズ。宿に着いて、粋なハッピにさらしならぬ腹巻きのタンクトップ、ねじりハチマキ、キマタに太い足をだしてイナセな男ぶり? 一丁出来上り。腰の印ろうにはちよっぴりおめかしにと口紅とオーデコロン。揃った揃ったカモカ連七十数名、大広間に集まり出ぞめのカンバイ。カモカ連の心いき、ドンと胸をたたき固い結束、イザ出発……。

演舞場に近づき観衆の眼はこわくはないが、な、な、なんと上手な人が。地元の有名連の人達の達者さには毎年思い知らされ、一瞬不安。でも踊りだしたらこっちのもん。そーれア、ヨイトナ、ヨイ

トナ、ヨイヨイヨイヨイ。ア、エライヤツチャエライヤツチャカモカ連々、ビバビバ。サンバ調のかけ声にライイトもまぶしくカモカ連が通る。聖子先生が踊る、おっちゃんも踊る、私達のカモカ連が踊る。私も何もかも忘れてただただ踊りに狂う。流れる汗もふかずに……商店街の中であっちこっちと行きかう連、カネの音が近づき高まり、又遠ざかっていく。夜店がならぶ、浴衣がけの見物の人々、踊る人、全体が祭り一色にぬられて行く阿波の町、私のふるさとも似たこの町が大好きだ。祭りのもつ底知れないエネルギーを明日への活力にと願いながら、踊り終って旅館の玄関にぬぎすてられた男足袋の山をいつまでもみていた。今は終る時間が早い……お世話してくれたおじさんが「昔はナ——晩中踊ったもんや」と話してくれた。なにやら物たらぬ氣もする。その分は二次会で踊ることにする。

一年に一度、なつかしく会う顔々、又来年もと尽きるこのない話に花をさかせて、踊りつかれて宿のねむりにつく。夢の中でか、どこかでカモカのおっちゃんが元氣にさげんだ。

「カモカ連、パンザイ」。と又来年もネ……ムニヤムニヤ踊らにやソソソソ……。

## み社の古き

## 記録を本にして

ふみ  
福田 義文

△生田神社宮司▽



本年は、首都を神戸（福原）に遷都して八百年記念の年に当る。治承四年平清盛公は、行きつまつた財政立直しのため宗との貿易に力を入れ、兵庫築港を試みた。しかし、その雄図むなしく源平の合戦となり次第に平家は西海に落ちたと「平家物語」「源平盛衰記」に記載されている。しかし、物語の歴史と地理などの関係は一致せず、一ノ谷にしても、嚴梅の紅白についても論争は今も続いている。八百年前は別として室町・徳川三百年の神戸の歴史は、霧か霞のように埋没している。

△汐なれし生田の森の桜花春の千鳥のなきて通へる▽

「雨月物語」作家・上田秋成が、徳川中期のどかなりし田園・生田宮村を詠んだものであるが、我々のもっと神戸発展の歴史を知りたいとの念は、つのる一方であった。私は、昭和十三年春、谷崎潤一郎

作「細雪」の舞台になった阪神大公害の神戸・生田神社に、大阪・天満天神さんから転勤。その翌十四年春、先代・加藤宮司は魚住惣五郎博士を編纂委員長に委嘱し、「生田神社史」の史料収集が始まった。委員各位や職員が必死になつて東奔西走したが「岡方文書（主として朝鮮との外交関係）」くらいで資料は見えられないでいる時、灯台下暗し。境内の旧家で社家の後神萬吉氏から葛巻二個（徳川三百余年の日記・記録・文書約壱万数千点）を提供して下さった。そこで、編集担当者・神宮皇学館助教岡田米夫氏ほかの手により次々と書写と整理の上原稿にまとめられた。

しかし、時の流れは支那事変・大東亜戦争に広がり戦局は熾烈を加え、書籍出版どころではなかった。前記の秋成の歌や蕪村の連歌のような神戸ではなく、遂に神戸全市戦災の日は来た。昭和二十年三月十七日・六月五日両度のB29の空襲で焼土と化した。加藤宮司以下拾名余で火の中をくぐつて御神体を守り、生田池で助かった。社殿は焼失し、森も黒焦となった。私は七月十日赤紙召集。そして終戦・復員と激動の中に明け暮れた。△戦いの烈しき跡は残りけり焼き枯らしたる楠の太木に▽

終戦直後に言語学者・北里闌氏

が、生田森を訪れられて詠まれたものである。全てが焼失した中で、昭和十九年内務省神社院命令で宝物・資料（後神文書）を山田村・六条八幡神社（国宝三重塔で高名）に疎開してあったので、これだけ残った。

戦後・昭和二十九年夏「新平家物語」取材の吉川英治氏は「生田森は焼失してなくなった」と書かれたが、枯死したと思われた樹令五百年の巨楠も、遅しく芽を出した。そして、昭和三十四年春、本殿以下社殿、続いて生田神社会館・楼門も完成。

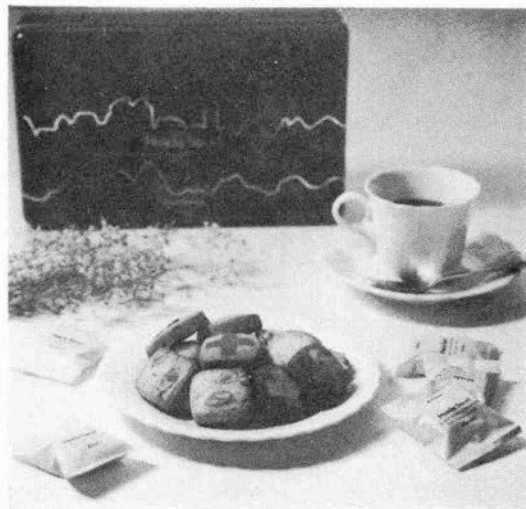
この時、昭和五十三年秋・廿五年毎の式年造替制度を確立。神楽殿・收藏庫・社務所の建設と、焼け残った「生田神社史―後神家文書―」の出版を計画。昨秋建設工事を完工し、本年夏B5判八百七拾頁の大部な刊行を見るに至った。実に、発見以来四十一年目の永い道程であった。内容は、生田神社史の根本史料であり、また近世史の重要資料で中世以降の神戸の歴史解明に一役を担うものとして各方面から注目を浴びている。この編纂に参画した先賢の多くが故人となられたが、福原遷都八百年の記念すべき年に完成したことは感慨なきを得ない。

△み社の古き記録を本にして読みふけりたり秋の夜長を▽拙詠



ユーハイムの新しい風

# ハイデザント

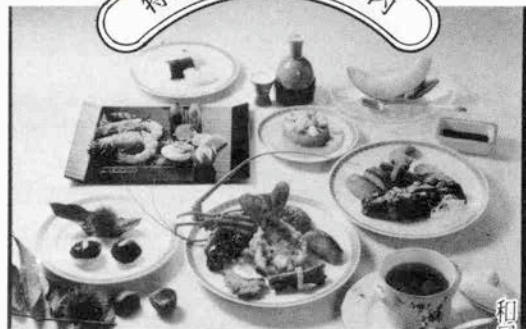


ドイツ菓子  
Falkenstein's  
ユーハイム

当社はユーハイムコンフェクトとは関係ございません。混同されないようご注意ください。

本	店	三宮生田神社前	TEL (331) 1694
三	宮	三宮大丸前	TEL (331) 2101
さん	店	三宮地下街スウィーツタウン内	TEL (391) 3539
ち			
カ	店	フランクフルトゲートハウス内	TEL (0611) 280262
イ			
ツ			

秋のオリエンタルホテル  
特別メニューご案内



和風フランス料理

秋の味席

●期間  
10月1日(金)～11月5日(木)

豊饒の秋をご賞味いただく  
和風フランス料理のご案内です。  
吟味した材料とシェフ石坂 勇が  
腕によりをかけた、味覚の秋にふさわしい一席。  
ちよつと趣向を変えて、  
お箸で召しあがっていただく  
オリエンタルホテルならではの味を  
お楽しみくださいませ。  
●ピアノ演奏のはが、期間中、土、日、祝にはワイフ  
フオーピアノのデュエットを予定しております。  
●ご来館の際は、あらかじめお電話で、日時を予約く  
ださいますようお願い申し上げます。  
●記念PHOTOプレゼントノ  
ご希望のお客様には、ボラロイドカメラによる、記念  
のスナップをお持ち帰りいただきます。

お一人さま ¥10,000

(税、サ込・お土産付)

メニュー / 和風オードブル、茶碗蒸し風スープ  
伊勢海老のグリル又は和風特選神戸肉ステーキ  
エリザベス風サラダ、丹波栗デザート、メロン、コーヒー

## 神戸オリエンタルホテル

スカイレストラン Noon～2:00 5:00～10:00

〒650 神戸市生田区京町25 ☎(078)331-8111

## 六甲オリエンタルホテル

スカイレストラン Noon～2:00 5:00～9:30

〒657-01 神戸市灘区六甲山町 ☎(078)891-0333

協賛 / 明治屋

□ある集いその足あと

# 関西二紀彫刻部

村上 炳人

△関西二紀彫刻部代表▽

ひたすら励んで造った彫刻からは、その人の心の詩が感じられる。そんな彫刻の魅力にひかれて、集まってきた仲間たち。最初のうちは、二紀会の関西展に参加していたが、彫刻の出品者が少なくて困った。そこで、一人、二人と呼びかけているうちに、だんだん人数が増えてきて、今では、つねに三十四、五名が参加するようなグループに発展してきた。



さんちか広場で行われた第8回彫刻展にて

委員、会員、同人、一般（二紀会本展に一回以上の入選者）の人などみんな同列に並べ、親睦を深め、社会的にも、各地の無名の人たちの名を高めようという意味で八年程前に始まった関西二紀彫刻部である。難しい規約などは何もないが関西二紀展の出品者も含めて、人数が集まったことだし、出品者に呼びかけて人の集まりやすい時期に、中央の情報を知らせたり、自分たちの作品を見せ合ったりする場を作ろうということ、彫刻展を年に一回位開くことに決めた。

秋に行われる二紀会本展以外は中央からの交流はとぎれがちになる。その様子を知るためにも格好の集まりとなっている。

また、世間に知られずに埋もれている人たちをもっと盛りたててあげよう、そしてその土地土地の人たちを紹介しよう、第一回は和歌山の文化会館で開いた。（一九七二年）

地方としては珍らしいユニークな彫刻展だと大評判だった。

その後、また開いてほしいとの招請も多く、和歌山だけでも三回行っている。その他、毎年、作品を持ち寄り神戸、姫路、奈良をまわり、今回のさんちか広場で第八回を迎えた。

東京とか京都でも開きたいと思

っているが、土地柄、作品に対する批評が厳しかったため、充実した作品が完成すれば、思いっきり力を試してみたいと、意欲に燃えている。

彫刻展としては、めったに見られない存在であり、グループ展としても自然発生的に生まれたものでこれだけ大きなものはなく、今後ますます広がりつつある。

コミュニケーションを大切にしている、部員同士も仲が良い。誰かが、今度は、ここでやろうと会場を見つけてきて、言い出したらすぐ決まるところにも、集まりの良さうかがえる。

部員の人たちは、美術教師や会社員などそれぞれ仕事を持っているが、合い間に、各自が創作活動に励んでいる。

若い仲間も多くいて、彫刻が好きで集まっただけあって、みんな一生懸命である。

回を重ねるにつれて、作品の出来もよくなり、参観者にも大変好評である。今回は特に、激励の意味でさんちか賞を個人に与えたが、今後の活躍が大いに期待される。伸びゆく若い人達の集いの場である。

△文責／編集部▽

△お問い合わせ▽

〒615 京都市西京区桂町50の3  
☎075-1381-2760 村上炳人

□連載エッセイ／私のひろいもの／22 V

# 船大工町

竹中 郁 〈詩人・絵も〉



私の生れ育った兵庫港のあちこちの町の名が消されてしまった。六年くらい前だった。なさけなかった。

つまらない能率主義に、やすやすと犯されてしまふ日本人全体に腹が立った。港の町の名がぜんぶ消されたのではないが、私にとっては心臓部をえぐりとられたといつてよい。

北仲町西仲町魚棚町磯之町（磯とは書かなかった）匠町松屋町小物屋町鹿屋町富屋町江川町、あ、むごたらしいこの傷あと。

ところが運のいいところもあって、清盛が築いた経ヶ島の東端に当たる船大工町はそのままである。うらやましい。

その羨しい船大工町へ、こないだ渡っていった。入江橋を渡ってすぐ左折、運河に沿って歩く。もやっている船の形や色は現代風だが、大きさは昔と同じだ。船宿や釣具屋がある。築島寺（本名来迎寺）の正面に当たる島の側の水際には一区画石

垣の出っぱりがあって、むかしここに橋があったことを示している。

そう、そう、ここに黒ぬりの橋があった。橋のすがたも眼底にのこっている。しかるにその橋の名が記憶されていない。なんというたかな。

そう思いついた途端、私の足はその町の東の端れにあった櫓屋の明石君とこへ向いた。七十年ちかい昔、私と同級だった明石君。この人なら、この橋の名を知っているにちがいない。工場には機械がうなりをあげていたが、木の匂いは同じ匂いだ。船頭かわいいや音頭の瀬戸で一丈五尺の櫓がしる——の赤身の長いものを作っているのだ。

「久しぶりやなあ」と云い交して、さて橋の名となると、この土着の明石君も「黒い橋」といい慣らわしていただけという。「も一つ東のは白い橋で、これは築島橋が本名」という。これなら私と同等の知識であり記憶である。そうだとすると私にも黒い橋を渡った記憶がないのに白い橋の方



は明かにかぞえきれぬくらい度々わたった。とくに、そのたもとに屋台店のてんぶら屋がでて、それが明石君の仕事場と軒をつらねていた。

小学生としては生意気な私は、この店のてんぶらの味を賞でて、わが家の眼のとどかぬのを幸、立ち喰いをしてたのしんだ。そんな理由のほかに何か黒い橋を渡らない因縁があったと考えてみると、橋の板が危険な状態になっていて、通行止めの札でもでていた。それで、渡らなかつたのだ。

そう思える。

明石君はその黒い橋の名については無頓着だったが、町の名が危うく市政の小役人の手で消し去られそうになったときは、なんの消されてなるものかと猛然と立ち上がったらしい。

何しろ父祖の地にかたまって定着してきた同業者たち、という強さもある。職業と立地条件のからみ、と抵抗をこころみるのは当然という状況だったらしい。

「それでこうして町と町の名は残った」と明石君はいう。男として誇しい業績をのこしたのだから、さぞ気持のいいことだろう。

正面にみえる築島寺を指して、「あの横の小路に豆腐屋があつて、おいしかったな」と私がいうと、明石君は豆腐をほめられたのを満足してか、にっこりと笑った。

清盛が築いて八百年、経ヶ島は難工事の連続だったらしいが、今日その島に栄えた造船業の名残りは、たしかに存在し、その継続を名称においても示している。

島上という名は経ヶ島の東に存在するという地名だが、そこに七十年前に私が見たり触れたりした建物がのこっている。赤煉瓦造りの二階建の石川商店株式会社だ。

私は道に腰をおろしてスケッチをした。それをのぞきこみに来た中年のサラリーマンが「そうでっか、三菱銀行でしたんか」と私が画面に文字をかきこむのを見て、いった。

兵庫津、船大工町、櫓屋の明石喜一君と書くとは肩書と、その内包する実体とがじつにぴったりとして絵に描けそうだ。

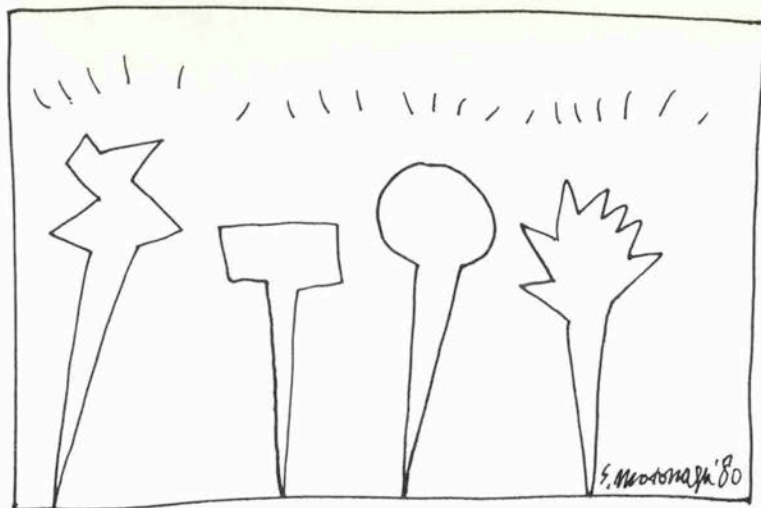


島上町  
石川商店

三菱銀行

# 匂配のある 体育祭

三枝和子（作家）  
絵／元永定正



十月と言えば体育祭の月である。陽差しは夏に比べるとさすがに衰えてはいるが、それでもかっ  
と照りつけると運動服の白が眼に痛い。そんな  
かを歩いて、あちこちからピストルの音や喚声や  
行進曲や呼び出しマイクの声が聞こえて来ると心  
が弾む。

目的のないぶらぶら歩きのとときはもちろんだが  
約束などあって急いでいても、体育祭の喚声が聞  
こえて来ると、ふと立ち止まりたい気持ちになる。  
特に坂道を海へ向って下っているとき、足許から  
ポリウムいっぱいあげた相も変わらぬクワイ河  
マーチやビヤ樽ポルカ、かび臭くなったビュー  
ティフル・サンデーなど聞こえて来ると嬉しくな  
る。下から音楽がふきあがって来るせいで、街全  
体が体育祭に浮き立っているような錯覚に捉えら  
れる。

神戸の街は海側から山へ上っていくときよりも  
山側から海へ下っていくときの感覚がいい。都市  
にはそれぞれ特色のある顔があって、その顔をつ  
くっているのは道路だと私は思うのだが、この道  
路を歩いてそれが自分の身体のかなかへ馴染んで来  
たとき、はじめてその都市の住人になったような  
気がする。私が住んだと言える街は、東京、京都、  
神戸の三つだが、東京の道路の扇形というか、あ  
の放射状に中央から広がっていく感じはあまり好  
きでない。それに歩くのにふさわしいとは思えな  
い。京都は歩く街だが、あの条理の感覚は理詰め  
で眺める愉しさが無い。その点、神戸の坂を下る  
ときは、街が展けて来る、そのなかへ自分が入っ  
ていくという喜びをいつも味う。ペルスペクティ  
ーフ、という言葉があるが、そうした心のときめ



きだ。

もっともこの頃は、むやみに高層ビルが出現して視野を遮るけれども、都心部をはずせばまだまだ大丈夫だ。校舎が下にあり、運動場が上にあたり、その逆だったり、坂の街、神戸ならではの学校の建てかたも幾つかあって、体育祭はそんなふうにして、山から海へ向って拡がっていく。

少年時代を神戸で過した作家の島尾敏雄氏の小説のなかには、よく神戸が出て来るが、その一つに「勾配のあるラピリンス」というのがある。このラピリンス（迷路）は、神有電車を降りたあたりから、新開地界隈へかけてのものらしいが、神戸の一つの顔である。私もそのひそみにならって「勾配のある体育祭」といった雰囲気の小説を書いてみたいと常々思ってまだ果せないでいる。私の作品は、駅と言えば阪急の西灘から六甲くらいまでのあいだの、山手から浜へむかつての拡がりのなかで展開したい。

いまはもう、そんな野暮ったいことは、どの学校でも流行らなくなったのだろうか、一昔前までは体育祭の花形はフォーク・ダンスだった。ゾーンになると練習がさかんで、学校の屋上や運動場で人の輪が開いたり閉じたりする。

以前にも書いたことがあるが、私は昭和二十五年の頃市立上野中学に勤めていて、このとき福住小学校と同居していた。小学校とうまく割りふりして運動場を使わなければならないので、体育祭前になると大変だった。いきおい居候の中学の方が遠慮して屋上をよく利用していたように思う。

いつだったか、フォーク・ダンスの練習に女生

徒の数が一人足りないとかで、新任で一番末席の私が屋上に呼ばれて生徒たちに加わって練習のつきあいをさせられた。

よく晴れた日だった。六甲山脈の稜線がひどくくっきりとして居り、尾根から海までのあいだ、空が一つらなり拡がっていた。当時神戸の街は戦災からの復興が充分でなく、見渡す限りの低いバラックのため、海が手で掴めそうな近くにあった。

やがて鳴り出した曲はクワドリールだった。何故か明瞭にそれを記憶している。女学校の一年の運動会にこの曲でダンスをした。昭和十六年の秋で、その年の十二月にはもう太平洋戦争がぼつ発し、翌年からはダンスなどは失くなり、なぎなたや分列行進がそれに取って替ったから、いきなり流れ出たこの懐旧のメロディに心を揺すぶられたのだった。

——平和になったんだ。

そう自分自身に確めてもいた。

神戸の山手から浜へ向って、緩やかな傾斜に沿って展開される、さまざまな学校のさまざまな体育祭を書きたいと思うのは、このときの記憶の鮮明さに焦点を当てたいからに他ならない。

しかしそれにしても最近は何物騒然として来て取り越し苦労ではなく、神戸が再び焼野原になるのではないかという不安がある。あんまり軍備だとか、ミサイルだとか喚きたてないでほしい。十月の光の下では、やはり楽しい体育祭が催されて赤白の鉢巻を締めた子供たちが精一杯の喚声を挙げて走り廻る行事を年々歳々繰り返したい。そんなふうに思うこの頃である。

●樹座神戸公演「カルメン」——11月3日(月)神戸文化ホールによせて

# ふるさと神戸で樹座初公演

□神戸のみなさんへ

遠藤 周作／作家・樹座座長▽

□樹座は樹座なりに  
井上 明子／作家・樹座文芸部▽



樹座は、今や国際的な存在です。今年五月、われわれは初の海外公演をニューヨークで行なつて、大成功をおさめ、その後はパリ・ロンドンからも招聘をうけている。

そんな樹座の底知れない魅力にいち早く目を向け、神戸公演を企画された神戸新聞社は、さすが文化の感覚が豊かな新聞社であります。

少年時代を阪神で過ごした私にとって、神戸は思い出多いところ、そこで公演ができるのは感無量。座員ともども張りきっております。

個性豊かな素人名優がそろった樹座の舞台を、どうぞ心ゆくまで楽しんで下さい。



エスカーミオ ドレアドールを唄う狐狸庵先生

「日本で最も規模の大きいアマチュア劇団樹座が、東京からはるばるやって来て、ビゼーの《カルメン》を上演するという。これを聞いては武装したサムライが大群となつて止めようとも見に行かざるを得なかった」

これは、米国の一流雑誌「ニューヨーク」がとりあげた樹座の海外公演の記事の書きだしである。これを見ておわかりのように、樹座の初の海外公演は大成功をおさめた。

思えば、樹座は創立当時から人気の点では、プロに負けない劇団だった。

樹座が誕生したのは、今から十三年前。

好奇心のかたまりの狐狸庵先生が、「人間はだれでも、自分以外の人物に化けてみたい、という願望をもっておる。芝居をやつてその楽しみを味わつてみようじゃないの」と、同好の士を集めたのが発端だった。

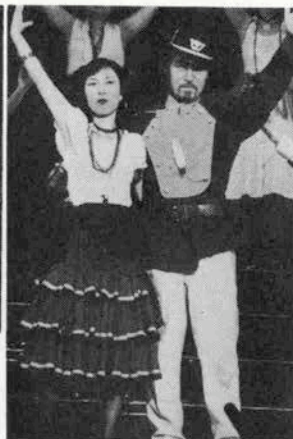
旗上げ公演は四十二年春。新宿紀伊国屋ホールにおける《ロメオとジュリエット》だったが、会場に満員の客を見た時は、全員、喜ぶよりもマッサオになり、ガタガタ震えたものである。

しかし、あけた幕は無事におり、面々、すっかり舞台の魅力にとりつかれた樹座は、多くの支持者のおかげもあり、公演は回を重ねていったのである。

狐狸庵座長の好奇心に共感して、樹座に参加する人たちは、学生・OL・主婦・サラリーマン・画家・医者・



(左) 酒場／踊り狂うジブシー女たち



(右) 酒場／秋野卓美画伯のホセ

福知山美人(?) 関西弁のカルメン吉田美津穂

カルメン第2幕神戸スタッフ／演出・岡田美代<公務員> キャスト／カルメン・柳本薫<デザイナー>  
ジブシーの女・服部清美・大里最世子・村上和子・小泉美喜子／バスティーヤ・伊吹健／スニガー・楠晴  
夫／モラレス・高橋孟／エスカミリオ・板東慧／ジブシーの男・佐藤康

実業家・すし屋の主人とそれこそ多種多様。多い時は座員八十名を数え、日本一の大規模な素人劇団となった。この多勢の座員たちが、自分のやりたい役を平等に分けあうのが、樹座の特色である。例えば、ニューヨークで公演し、こんど神戸で皆様にお目にかけるミュージカルハカルメンVにしても、カルメン役は七名、ホセ役は四名いて、それぞれの場面をうけもち、バトンタッチで演ずる。脇役も同じである。

もう一つの特色は、樹座が演じると、なぜか、そう、なぜか、いかなる悲劇も喜劇になってしまいうことである。旗上げのハロミオ……Vの時も、その後のハムレットVの時も、観客は抱腹絶倒だった。

さて、このプロとはあまりに持味のちがう樹座のニューヨーク公演を、座長が企画した時、私はなかなば冗談だと思った。同じ思いの人は少なくなかった。ところが、話は次第に具体化していった。

樹座には、私の身内も一人加わっているが、この役者は、座長から「永久にうまくなならない」と太鼓判をおさっているダメ役者なので、「あなたがニューヨーク公演に参加したら、国辱ものよ。あなたは遠慮したほうがいい」と、家族は説得につとめたりもした。

しかし、海外公演がついに実現の運びとなるや、このダメ役者もまじえ、全員は勇躍(?) 現地へととんだのだった。

公演その日、さすがに皆は不安げだった。

へたな芝居に愛想をつかして、観客は次々に席を立つてしまふのではないか。だれもがそう心配した。が、いざ、幕をあけてみると、どうだろう!

会場のジャパンソサエティを埋めた観客(日本人八割米人二割)は、実に熱烈な反応を示し、拍手拍手の洪水東京公演に数倍する熱狂ぶりに、会場のすみで私は涙がにじんだ。

この大成功の秘密は何であらうか。

『彼らのもつ文句ない誠実味が、舞台を圧倒していた』と、「ニューヨークカー」は、賞めてくれたが、手前味噌ながら私がいいたいのも、そのことだ。

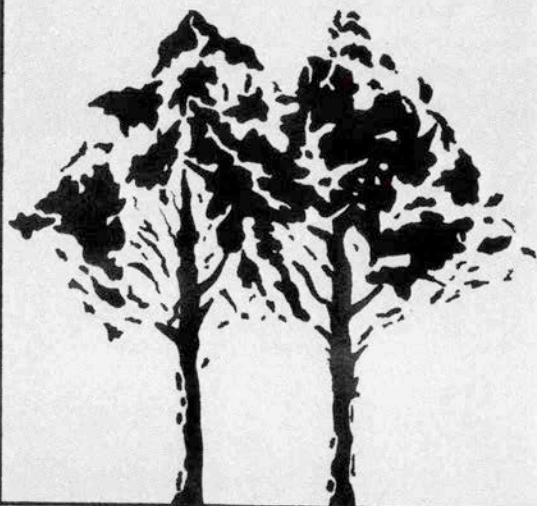
樹座の役者たちは全員つねに、心底一生懸命やっている。結果はへたくそでも、滑稽でも、本人たちは大真面目でがんばっている。それが観客の共感を呼ぶのだと、私は思う。

十代の若者から七十代の老人まで、樹座ならではの役者が活躍する、十一月三日文化ホールでの《カルメン》にご期待を乞う。

なお、来年四月四日、東京・都市センターホールでハマイ・フェアレディVの上演が決定していることも、ここに付記しておく。



バウムクーヘンの  
風味がさえる時



北 欧 の 銘 菓  
**ユーハイム・コンフェクト**

■本社・工場・熊内店 神戸市灘区熊内町1-8(南宝美術館東隣)TEL 221-1164  
■三宮センター店・さんちか店・太丸・そごう・阪急・神戸アパルト・元町店

軽く視野のひろいスポーツ感覚のメガネ

**軽～いめがね**



HOYAナイロールスポーツフレームは、かけているのを忘れるほど軽く、視野が広いスポーツ感覚のメタルフレームです。プラスチックレンズとの組合せにより今までのメガネの半分の軽さになり、軽快なメガネをお約束いたします。一度手にとってご覧下さいませ。

 **神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表  
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874～5

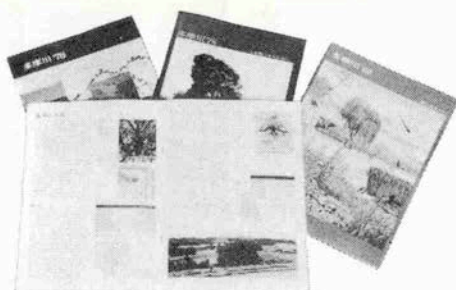
△その14▽  
財団法人

## とうきゅう環境浄化財団

米花

稔（神戸大学名誉教授）

私が日本経済新聞の文化欄に「わが心に川は流れる」という小論を書いたのは昭和五十三年五月のことであった。このことを書くつもりはない。ただこれからの地域のあり方とその個性を考えるについて、日本人の川にもつ心情を知りたいと思って、現代小説で日本の川をテーマとする作品四〇余などをみての感想をのべたのである。それから一年余りして昨年九月、その記事に関連して一通の便りをもらった。財団法人とうきゅう



「多摩川'75」から「多摩川'80」までの美しい報告書

う環境浄化財団という団体の事務局長からの問合せであった。同時にその財団の活動の紹介と資料多数を送っていただいた。そして今年も最近の活動、資料などが届いた。これが本小論の主題である。

この財団は、多摩川とその流域の環境問題に焦点をしばった調査・試験研究への助成を主体とし、あわせて調査研究・啓蒙事業を行っているもので、昭和四十九年八月多摩川にかかわりある私鉄各社などの参加で設立されたという。各社が理事をおくっているが、財団会長は東急社長五島昇氏で、年々の活動援助の寄付先などからみると東急グループが主体のように見受けられる。

今手元に「多摩川'75」から「多摩川'80」までの年々の美しい報告書それに対応する資料編などがある。研究助成対象は流域の自然環境調査、生態学的研究、利水治水、土地利用などさまざまな多摩川を焦点とするテーマについて、大学、研究機関の研究者、高校中学の教官におよんでいる。そして

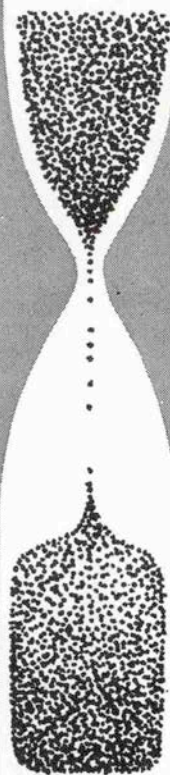
これらを手がかりとして、前記報告書では自然環境から、アセスメント、歴史と文化など多面的に解説されている。特に本年は研究をハードからソフトに及ぼし、「親しめる川へ」というキャッチフレーズをかがけて、アメニティ創造の議論にも及んでいる。昨年筆者への問合せのあったのも、川をテーマとするハードからソフトへの進展の過程のものであった。いずれにしても、多摩川ひとつに止まって、その自然科学、人文科学、社会科学と各分野からの接近を助成し、資料をまとめて発表するなどをみて、きわめてユニークな地域社会活動が電鉄会社中心にとりくまれていることに関心をそそられた次第である。

たまたまこの八月大阪での琵琶湖・淀川流域の「流域と水問題」のパネル・ディスカッションで同席した陸水生態学を専攻されている森下郁子さんは毎日出版文化賞の著書「川の健康診断」で知られている方であるが、会のあとの雑談で川の生物論議が川の文化論に及ぶ見識に感銘をうけた。また故大原総一郎氏の高梁川水系文化論を思い出しものである。川の自然的、環境的な関心から広く文化的視点にも及ぶ今日、関西でも何らかの試みがあってほしいものだ。

★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



(35)

# ファッション街区は ポスト・ポートピアの核

米花

稔 △神戸大学名誉教授▽

中田

善司 △神戸市経済局長▽

― 来年三月から神戸ポートアイランド博覧会（ポートピアⅡ）が開かれますが、今回はそれ以降のいわゆるポスト・ポートピアについて、特にファッション街区の話題などを軸にしてお話をお願いいたします。

ファッション街区は日本一魅力のある企業環境

中田 最近、市長からもポートピアと同じぐらいの力でポスト・ポートピアの施策の検討をやれという指示が出て、役所の中でも半分はポートピアに、半分はポスト・ポートピアという配分で仕事を進め、段々とポスト・ポートピアへ移行して行くと思います。ポートピアはポスト・ポートピアのスタート点だという考え方です。

ポスト・ポートピアで重要なのは、一つはポートピアでの公共投資の集中をその後もどう続けて行くか、スロウダウンの調整をどうするかという問題。もう一つは、祭りが終わったあとの寂寥感がないように、民間からエネルギーをどのように出していくかという問題。

木口

衛 △株式会社ワールド会長▽

川上

勉 △オールスタイル株式会社社長▽

具体的に言いますと、一つは、博覧会用地のあとの建設にかななければならない。つまり、ポートアイランド自体のポスト・ポートピアと、ポートピアを起爆剤にして神戸全体の経済をどう充実して行くかという問題の二つが検討されなければならないと考えています。それは一つは国際化を中心としたファッション化です。北野町ではファッショナブルな街区ができて上がって来ます。それと元町、三宮というファッションの中心地。それから国際会議場、国際展示場を中心としたポートアイランドのインターナショナルスクエア。ファッショナブルな雰囲気を利用した高付加価値産業への転換の第一歩にしたいと思います。国際化、ファッション化を中心に進めて行くということです。

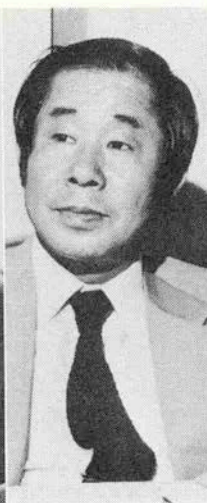
木口 ポートアイランドのファッション街区には十八社の進出が決っています。ただ、神戸のファッション業界だけが集まってファッション街区をつくっても、これは世界に通用するファッションということにはならない。



一万一千坪を予定しているのですが、全国の優良企業を誘致しようということで業界からも働きかけています。ファッショ性の高い優良企業に進出してもらわないと意味がない。企業の質と規模が問題になる。これまでに説明会をやっているのですが、説明をすると、なるほど神戸はすごいものをやりよるな、という意見ですね。ただ、進出決定までには時間がかかりますね。そのためにもポートアイランドの実態を見てもらうことが先決です。博覧会ときに神戸のポートアイランドをよく見てもらい認識してもらおうことが必要だと思いますね。ピー



米花 稔さん



中田 善司さん



木口 衛さん



川上 勉さん

・アールを徹底的にすべきですね。百聞は一見にしかずといいますが、まず見て欲しい。国際交流会館や国際見本市会場やホテルなど周囲の環境を見てもらうと、これはファッションタウンとして最高だ、という認識を必ずもっていただけたらと思います。

川上 ファッション街区についての計画ですが、昭和四十八年一月からポートアイランドでのファッションの町づくりについて模索を始めました。一つの理想像を描いてやって来たのですが、そう遠くないうちに実現できる可能性が濃くなって来たと思います。

当初からの目的は、神戸だけではなく、全国から、また海外から買いに来たり、あるいは売り込みに来たりする場所であつたり情報やノウハウを交換する場所であつたり、売り買いの両方が集まって来る魅力ある町づくりです。そのためには、どのような方法で可能性を実現にもって行つて、ポスト・ポートピアに結びつけて行くか。ポートアイランドのファッション街区は本当に生き生きと活動する場になって行つてくれることが、私たちにとつてのポスト・ポートピアですね。そこが繁盛して栄える場所にならないといけない。ポートピアが終つたあと、どつと他都市から企業が参加してくれるということ而努力して実現させて行きたいですね。

米花 ポートピアに一千万とか一千何百万とかが来られるという予測ですね。その人たちが神戸のどういうイメージをもつて帰るかという問題がある。それに対してファッション業界がどう手掛りをもつかということですね。それから終つてからさしあたり五年ぐらひは辛抱しなければ機能を發揮しないでしょうね。五年ぐらひは息を抜かないで続けて行かないと花が開いて来ない。

博覧会の中に人の交流がかなりあり、その中には業界の方もお見えになるだろうが、そういう方々にどういう期待をもたせるかという問題がありますね。

また、例えば新神戸駅から中央市民病院、加納町三丁目、三宮と続くゾーンは過去十年間でかなり変わって来

ましたね。少なくとも加納町三丁目から新神戸駅までの利用の仕方が変わって来た。ファッションの店が増えて来たし背後には北野がある。そこからポートアイランドまでズーッとファッション街になる可能性があると思いますね。全部ではないのですが、あの部分の中に神戸のイメージができて来るのではないかと。これは十年とか十五年とかかかる問題ですが、そういうことを考えながらファッション街区を考えて欲しいと思います。ポートアイランドだけが出来たらいいというのではなくて、ポートアイランドに関連してその背後の旧市街地をもそれを手掛りに少しずつ良くして行くというのが本来の考え方だし、また、そういう方向にはなっていると思います。

### ボスト・ポートピアに必要な「遊び人」

中田 ポートアイランドの国際会議場は、口で言っても仲々わかってもらいにくいのですが、素晴らしいものが出来ます。神戸に本来的にはもっと前からなかったらいけなかったもので、サミットでもここで出来ます。神戸は宿泊客も大阪にとられていきますし、現在、人の流れの中心になっていません。ポートアイランドには大型ホテルも出来ますし、それに、会議場、展示場が近接しているというチャームポイントをもっているのは神戸しかないですね。現在でも国際会議の八件を含めて百件ほどの会議の申し込みが来ています。これによって人の流れの中心になるのではないかとという予感がしています。米花先生がおっしゃったように、五年という期間を考えるなら私は強気なんです。ポートピアをきっかけに日本の代表的なクリーンな企業の幾つかが神戸の内陸の工業団地に進出を決めてくれそうな気配ですし、神戸は見直されていると思います。直ぐにと言うのは難しいですが、五年とかの期間を見れば、ファッション街区にしてもかなり強気で他都市の業界に働きかけられるのではないかと思っています。

米花 私は昨年あたりから息の長さということを言って

いるのですが、今までは大体一年スパンでいろんなことをやって来たのですが、五年とか、それ以上のスパンを息を抜かないでやらないといけないことがこれから増えて来ますね。息を抜かずに蓄積したエネルギーをもちつづけながらやって行かないといけないだろうと思う。また気を抜かずにやれるだけのエネルギーをもたなければいけないですね。

木口 神戸は東京あたりと違って条件が大変に良いですよ。ホテルあり国際会議場あり見本市会場あり、しかも地価が安い。東京あたりから来る人なら地価だけでも二つ返事で来そうなんです。だから、行政と業者が一体となつてかなり活発にビー・アールして、そういう利点を認識してもらう必要がありますね。

中田 木口さんが言われたように宣伝はもっとしなければいけないけれど、パンフレットとか口で言うだけでは弱い。博覧会はポートアイランドを見てもらう絶好の機会ですね。実際に見てもらった効果は大きいのではないかと実感としてそう思います。

川上 日本中さがしてもファッション街区としてポートアイランド以上の立地が考えられるところは、その便益とか環境とかいろんな角度から個別に見ても総合的に見てもないですね。神戸でもポートアイランドだけです。だから話を聞いた人はみんな強い関心をもってくれる。その聞くから見るに移ったときに、タイミングよく決意していただくためにどういう情報を送るかが今後の課題ですね。来てくださいてと唯お願いをするのではなく、こういうものがありますよと具体的にわかってもらえるのがこのポートピアですね。魅力を整理し組立てて行って関心をより高めてどうしても参加したいという気持ちになつていただく。その対策を立てないといけないですね。

米花 万博に比べるとポートピアは足の便は非常に便利ですね。立地条件は非常にいい。また、万博のときに蓄積されたソフトウエアが沖繩博やポートピアに生きて来るといふことなんです、万博のときは関西にソフトウ



エアが定着しなかったわけではないが思ったほど残らなかったですね。ポートピアでは全国レベルでの出展ですからそのノウハウからソフトウエアにはかなり地元に関連した方たちも加わっていると思います。そういうエネルギーが終ったら消えてしまうのではなくて、ポスト・ポートピアで引き続き活用されるようなプロジェクトを盛り込むことがエネルギーを蓄積して行く手掛りじゃないかと思います。つまり、ポスト・ポートピアで建物だけが残ったというだけではなく、同時にそれに携わる人々のエネルギー、並びにそれを形成したいソフトウエアがポスト・ポートピアの神戸に生きるような場をつくって行くことが必要ですね。直ぐには目に見えなくても五年、十年先の神戸のエネルギーのための基盤になるような気がしますね。どちらかというとこういうエネルギーはこれまでの神戸で一番欠けていた。それがこの機会に出て来ると思う。それを生かすことが、直ぐにファッションにつながるかどうかはわからないけれど、広い意味で、新たな発想とかシステムを生み出すことになると思っています。いい意味で遊び人が増える機会ですね。遊び人といっても仕事をする遊び人ですね。その遊び人が神戸で、またその周辺で残って仕事をやるような場をつくって欲しい。そういう経済をもって欲しいと思うんです。それがファッション文化に直接、あるいは間接につながって来るのじゃないかという気がするんです。

#### ファッションのメッカをポートアイランドに

木口 実は昨年、アパレル産業協議会というものが東京にできたのですが、何を目的にしているかという一つは人材教育、いわゆるファッション大学の研究ですね。ファッション大学を建てなければいけないという気運が日本中に盛り上がりつつ来ている。そこで、ファッション大学が日本にできるとすれば、神戸へ何としてももって来ないといけない。ファッション大学をもったところが必ずファッションのメッカになる。神戸がファッション

都市として生きるのであれば、この際、かなりの熱意をもってファッション大学をぜひ神戸にという運動をやって行かなければいけない。ファッションに対する神戸全体としての意欲を見せておく必要があると思います。出来るだけ早い機会に神戸としては名乗りをあげないといけない。業界も行政もいろんなところが一緒になって意思表示をハッキリしておく必要があるのではないかと感じます。

中田 ファッションという現代的な産業には人の力と雰囲気が必要です、学校というものは大きな力になりますね。神戸は港を中心に鉄とか機械とかの重工業で発達してきましたね。それが段々変わって来て、いわゆる中堅企業がファッション志向でどんどん伸びて行く。それには神戸のもつ美しい町並みや海があるとか、また気候が温暖だとかという良い条件があったわけで、学校のよう核になるものが出来ればますます強くなりますね。

木口 やるとすれば神戸だけではなく日本のファッション大学にしないといけない。

米花 神戸には芸大もないですね。

川上 業界としては、そこを卒業した人たちが業界に有利に就職ができるし、業界がぜひ欲しいと考えている人材を養成する専門の各種学校を考えています。そこでは業界の人が講師にもなれば、また、生徒にもなる。

米花 しかし、それだけではなく研究機能をもたせた方がいいのではないですか。全国レベルにもって行こうとしたら養成と共に、そこでファッションとかデザインの研究ができるようにした方がいいですね。

中田 神戸は歴史も浅いのでまだまだいろんなものが不足している。本来ならそういう大学もあってしかるべきなんです。

木口 ただ我々がやろうという学校は利益追求のための学校ではないんですね。利益はなくていい。優秀な人材が育てばいいわけです。もうけ主義の学校をつくったのではダメです。全国から資金を集めてつくって、たとえ



ばデザイナーの専門知識を得るためにはあの学校を出ておかないとダメだというようにデザイナーの資格が問われるぐらいの学校でないとつくる意味はない。

米花 神戸はこの百年、金や人を外から集めるのが得意というか、開放的なんですね。だから、神戸はファッションのような新しい文化的なものをやって行くにはやりやすい。全国的、あるいは国際的なレベルの人を呼びやすいし、また、そうすべきですね。世界の神戸だという意気込みが必要でしょうね。

木口 とりあえず始まりは小さくても将来、ファッションのメッカにするんだという理想をもって行かないといけない。

米花 小さいときからそれについては第一級だという式をの段々と広げて行く。初めから大きなことが出来なければある分野について第一級の人でやって行くというやり方でしょうね。

中田 ちよつとファッションから離れるのですが、最近神戸の貿易では輸入が増えて来ました。小物の輸入が西日本では神戸に集まって来る機能ができて来たんです。

もう一つは靴。全国の業者が年に三回、神戸に集まるんです。市場形成が段々と成されて来る。神戸では努力して行ったらファッションのメッカになるという考え方も可能なのではないかという気がします。北野、三宮、ポートアイランドがファッションの生産地としてのみならず消費地としてもファッションタウンとして完成されて行く絶好の雰囲気をもっていると思います。ここで民間のエネルギーを分散させて欲しいですね。

米花 そのときに五年、十年かかるということを市民とか業界とか行政とかみんなが理解しておかないといけない。そういう共通の姿勢をもつためのピー・アールをやっておかないと挫折しますね。

中田 僕は舞台づくり屋で、民間にそこで芝居をやってもらおう。舞台づくりの方は今、何とか頑張ってやっているの民間も頑張っただけです。

川上 ポートピアの終わったあとひっそりしないように、ポスト・ポートピアでは何よりも人が集って来てくれる魅力ある町づくり、文化都市づくりという旗印をかかげるべきですね。そのために文化の香りのある特色ある催しをやるのが一つ。神戸のあらゆる業界が業種ごとのそれぞれの催しをうまく組み合わせ、神戸へ行けば常にこれまで蓄積して来た技術や遊芸の技やいろんな催しがあるという形にして行く。今度はホテルや国際見本市会場も出来ることですから。もう一つは、こういうものが出来ると有難いのはファッション博物館、資料館ですね。これはファッション大学ができて行くことに対する大きな支援でもあると思います。そういうものをつくる気運を盛り上げて行けたらと思っています。

米花 ポスト・ポートピアの目標は幾つかあるが、その中の有力な一つがファッション都市への大きな一つの手掛けですね。そうすると、やはり結論としては息の長さを前提にしないといけない。それには業界、行政、市民の共通の理解を前提にしないといけない。その中で行政はそれに合うような計画を進めていただき、業界はそれぞれの業界を伸ばすと同時に神戸という地域特性をどのように生かすかを考えていただく。それが全国的に段々と評価を高めて行くことになるのではないのでしょうか。それにはまず博覧会期間中にそれをどう織り込んで行くかということを考えておかないといけないですね。

今度のパビリオンは重工業系統の会社もかなりお出しになっている。そういう中にはかなりソフトウェアが蓄積されていると思う。特に神戸の重工業は知識集約という研究開発に非常に重点をおき、そういう分野が残って来ているので、ファッションとはやや異質かも知れないけれど、創造性とかシステム化とかという面では神戸の重工業でも人材が育成されつつあるように思う。いい意味での遊び人が形成されている。ポスト・ポートピアでは何よりも人材、いい意味での遊び人を少しでも多く残して行ける仕事の場をつくって欲しいですね。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊 作  
神戸市葺合区旗塚通 6-3-10  
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川 上 勉  
神戸市生田区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲 岡 必 三  
神戸市生田区三宮町1丁目17-4  
センタープラザ東館 8 F  
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松 谷 富士男  
神戸市生田区三宮町1丁目54  
TEL (078) 332-3155

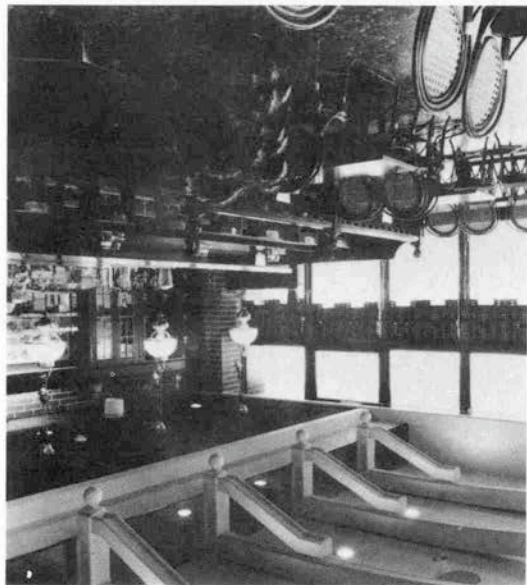
モロゾフ株式会社

取締役社長 葛 野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の  
企画は以上5社の提供によるものです。

こうべにふれあいのディテールを



Coffee-Shop「シャチ」(ポートアイランド)

商業施設全般・調査企画・店舗装備・設計施工

心の通う店創り

本社 神戸市灘合区御幸通3丁目2-20  
(設計室) TEL (078) 252-1321(代)  
神戸事業部 TEL (078) 251-3525(代)  
名古屋事業部 TEL (052) 561-3618  
東京事業部 TEL (03) 278-1369



神戸日建

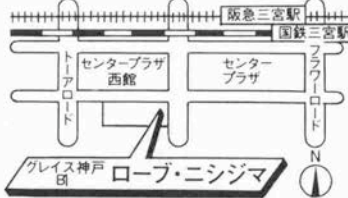
●ローン・リースの開店資金相談

# ファッション・センスを プラスした クリーニング



## ローブ・ニジジマのサービス内容

- ファッション・メンテナンスのすべて…型くずれの防止、素材感の回復、お客さまの好み通りの仕上げ
- いつまでも美しく着るためのアドバイス



神戸市生田区三宮町2丁目11 グレイス神戸B1 ☎(078) 332-2440  
(水曜定休)